

# 六甲・摩耶フォーラム まちと自然のつながり～新ロープウェー構想～

日時:2025年9月6日(土)18時30分～20時30分

場所:中央区文化センター多目的

参加人数:122名

主催:神戸市都市局交通政策課

## ○ 登壇者

<司会>

・mottif lab 代表 坂本 友里恵

<パネリスト>

・兵庫県立大学名誉教授

・一般社団法人森と未来代表理事／林政審議会委員

・摩耶山再生の会事務局長

・神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻教授

・神戸大学学術研究推進機構 SDGs 推進室特務准教授

服部 保

小野 なぎさ

慈 憲一

織田澤 利守

土井 祥子

## ○ プログラム

1:六甲山・摩耶山の現状について(交通政策課)

2:パネリストによる取り組みの紹介

3:パネルディスカッション

テーマ:市民に身近で訪れやすい六甲・摩耶山のこれからを考える

LiveQ を使用し、WEB 上で参加者からリアルタイムに質問を投稿してもらい、新ロープウェー構想を含めた六甲・摩耶山との関わり方等について、議論を行いました。

### 【パネルディスカッションの様子】



#### 4:とりまとめ

当団は、グラフィックレコーディングでフォーラムの内容をイラストで記録し、それらを用いて振り返りを行いました。

【グラフィックレコーディング、取りまとめの様子】



## ～六甲山・摩耶山の現状について（交通政策課）～

### ◆ 濑戸内海国立公園(六甲地域)

六甲山・摩耶山は江戸から明治時代にかけて、ほとんどがはげ山で緑はなかった。市民の生活の安全のため、1902年から植林が始まった。1956年に瀬戸内海国立公園に指定され、現在のような森林ができた。

環境省の管理運営計画書では、人の手で育まれた自然や、常に新しいものを取り入れながら発展してきた観光の歴史をふまえ、多様なニーズに応える上質な山遊びの空間とサービスを提供することが求められている。

### ◆ 六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会

利用者の低迷、車による交通渋滞、アクセスルートの改善の必要性など課題もある。山上の更なる活性化に向けて移動を支える交通が重要な要素のひとつであり、「六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会」を設置し、2024年2月に報告書をまとめた。

内容は、海・まち・山が近い立地を生かすために、回遊を促進する交通軸を形成し、神戸の魅力を高めようというもの。具体策として、市街地から山上へのアクセス向上、山上交通の充実などの方針が示された。

### ◆ 新ロープウェー構想

新ロープウェー構想では、ハーブ園山頂駅から掬星台を結ぶ路線を新設。新神戸駅から掬星台までのアクセスが容易になる。

新ロープウェーの検討路線は、環境省が指定する国立公園の「第1種特別地域」および林野庁が指定する「保護林」を通過する。そのため、環境省、林野庁に相談を行っており、市として現状の自然環境の資質を確認するため、現地調査を実施している。

### ◆ 六甲山・摩耶山の公共交通の充実による効果

六甲に対する価値認識の低下や、市民の六甲ばなれが指摘される中、新ロープウェーや山上交通を整備、充実させることで、さらに市民に愛され、親しまれる山を目指したい。また、国立公園の利用者が増えることで、地域のウェルビーイング（心身の健康）にも貢献すると考えられる。

## ～パネルディスカッション内容（要約版）～

- 司会
- パネリスト

### (1)六甲山・摩耶山の自然について

- (服部氏)

六甲山・摩耶山は6系統もの生物群が共生している。固有種はいないが、多様な生物群が共生していることが大きな特徴である。

また、人の手が加わることで多様な自然ができたという点も大きな特徴である。原生的な自然はないが、はげ山を再生させたことが素晴らしい。

そして、一番大きな特徴として、大都市に隣接する「都市山」であるということ。環境林、文化林、人材育成の場としても役立っている。

### (2)自然に触れることによる効果

- (小野氏)

森林に対して、ちょっと疲れた時に行ってみたい、癒されたいというニーズは増えている。

「森林浴」という言葉は1982年に林野庁が提唱した。森の中に入るとあらゆる効果がある。自律神経が整ったり、ストレスホルモンが下がったり、免疫力が上がったりという効果が証明されている。睡眠の改善、幸福度の向上もある。

### (3)山を活用しながら守る

- (慈氏)

「まちと山の関係の再生」を目指して活動している。山のコミュニティづくりとして写真、語学、下山教室などを開催している。

ただ単に観光施設を造るのではなく、六甲山ならではの自然体験の機会を増やし、山に関わる人がもっと増えてほしいと思っている。

- (司会)

慈さんの活動に参加し、山を活用することが山を守ることにつながっていると実感している。森林の保全においても、手を入れていくことは必要になるのか。

- (服部氏)

森は進化する。自然はそのまま置いておけばいいわけではない。放っておいたら常緑樹ばかりの真っ暗な森に移行する。

- (土井氏)

地域づくりは、過去の人々の選択の積み重ねなど、歴史的文脈をふまえた上で考えることが大切。六甲山・摩耶山についても、人々がどのように働きかけ、関わってきたかを知るべきだ。

- (小野氏)

100年後の世代に何を届けたいのか。自分たちでつくった森林を放っておいてはいけない。今、六甲山・摩耶山から離れてしまっている人たちに目を向けてもらえるよう、興味を持ちやすい機会が重要だ。

#### (4)公共交通・新ロープウェーが果たす役割

##### ○(司会)

六甲山・摩耶山に関わる人が増えるためには、アクセス面の充実が重要になってくると思うがどうか。

##### ●(織田澤氏)

課題の一つに繁忙期の渋滞がある。六甲山上は観光シーズンになると車が渋滞し、レストランに到着できず予約をキャンセルする人もいる。

公共交通は、輸送のエネルギー効率が圧倒的に高い。守っていくべき自然の中を移動する手段として望ましい。

また、車で移動すると、ポイント・ツー・ポイントとなりやすいが、公共交通の場合、乗り換えの際に歩くことで、植生、匂い、さえずりを感じることもできる。

##### ●(服部氏)

ケーブルカーが廃止され、学校の環境学習に影響が出た例がある。子どもが自然に触れ合うためには、公共交通がとても大切だ。

##### ●(慈氏)

登山ができない高齢者や障害者が自然を体験するためにも、公共交通は必要だと思う。

##### ●(土井氏)

新ロープウェー構想は答えがまだ出ていない。多くの人の意見を聞きながら、検討のプロセスを公にしていくことが大切だ。

##### ●(服部氏)

森林を管理し、維持するためには伐採も必要。新ロープウェーを山の管理に利用することも考えられる。

##### ●(織田澤氏)

人の流れは、交通インフラの影響を受ける。多様な人が山に関わり、意見を交わすことが大事だ。

## ～当日の質問への回答～

当日ご質問いただきましたが、パネリストの専門分野や、時間の都合上回答ができなかつたもののうち、主なものについて、以下に回答いたします。

### Q1. 新ロープウェー整備の目的・ターゲットについて

- ロープウェー構想のメインのターゲット層はどこにあるのでしょうか。
- 誰のための新ロープウェーなのでしょうか。

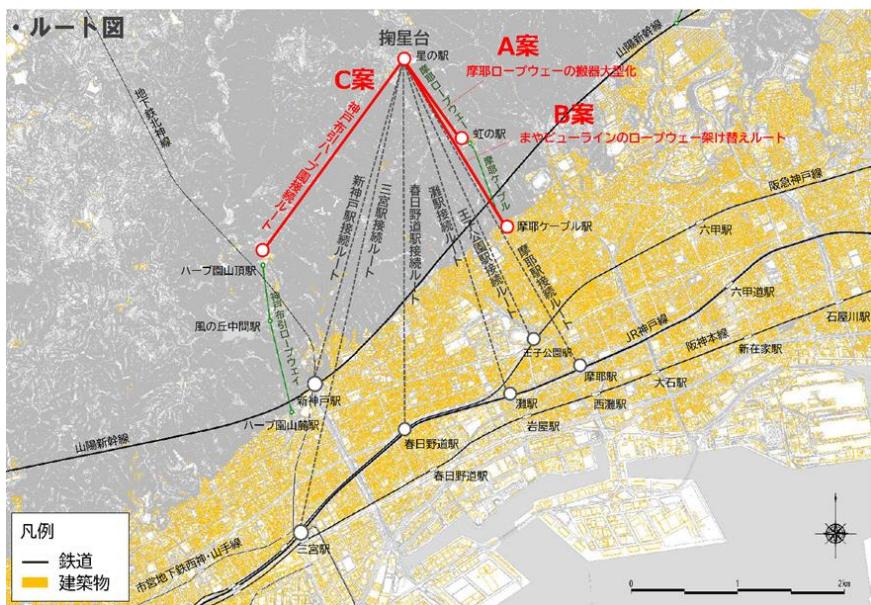
- 六甲に対する価値認識の低下や、市民の六甲ばなれが指摘される中、新ロープウェーや山上交通を整備、充実させることで、さらに市民に愛され、親しまれる山を目指したいと考えています。また、国立公園の利用者が増えることで、地域のウェルビーイング(心身の健康)にも貢献すると考えています。
- 一方で、新ロープウェーの整備は、新神戸駅と直結することにより、国内外からの来訪者の増加につながるという効果も期待されます。
- 市民にとっても観光客にとっても、訪れやすく身近な都市山であり続けられるよう、交通の面から六甲山・摩耶山の活性化を検討していきたいと考えています。

### Q2. まやビューラインやバスの活用について

- まやビューラインへの誘導や、バスの増発などで対応する方が良いのではないですか。なぜ新たなロープウェー構想が出てきたのでしょうか。

- 市街地からのダイレクトなアクセス手段の検討が必要という検討会でのご意見をふまえて、第5回検討会で、掬星台へのアクセス案として3案(A案～C案)について検討を行いました。
- �掬星台へのアクセス案として複数の案を検討し、検討会終了後の報告書では、需要予測の結果、黒字化の可能性があり、事業費に対する経済波及効果も見込めるC案(現在の新ロープウェー構想)の整備を進めるべきという提言をいただきました。

## 【山上へのアクセス案検討の考え方(第5回検討会資料)】



### 詳細は「六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会」の概要版で確認できます

六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会では、「現状の交通課題」や、「新ロープウェーの需要予測・事業採算性」等についても、検討を行ってきました。以下の URL からご覧いただけます。  
⇒ [「六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会」概要版（リンク）](#)

### Q3. 自然への影響について

➤ ロープウェーの整備による自然面への影響は考えられるのでしょうか。

- 六甲山・摩耶山は国立公園であり、保護と利用のバランスを取りながら、自然の保全と利用促進を図ることとされています。
- 神戸市では、現状の自然環境の資質を確認するため、現地調査を実施しています。それらの結果をふまえながら、ロープウェー整備による自然への影響について検討を進めていきたいと考えています。

#### Q4. 自動車利用について

- 新ロープウェーができてもマイカーの優位性は変わらないと思います。
- 自動車を規制するなどの対策はないのでしょうか。

- 現状、六甲・摩耶山上までの交通手段は、自動車が約7割と最も高く、繁忙期(5月、8月、11月)には、特定の施設付近(六甲山牧場、六甲ガーデンテラス周辺等)で自動車渋滞が発生しています。
- 検討会での需要予測では、市街地からのアクセス性向上によるマイカー等利用者からの転換需要(2.6万人／年)を見込んでいます。このような公共交通への一定の転換を見込みつつ、更には山上交通の充実や適正な自動車利用の促進についても多面的に検討を進めていきたいと考えています。

#### Q5. 山上の再整備について

- ロープウェーを使いたくなるほど山上へ人を惹きつけるものは、夜景以外に何を想定していますか。
- オテルド摩耶の跡地はどうなるのでしょうか。

- 山上の再整備については、経済観光局が摩耶ロッジ跡地や掬星台園地を含めた一体的な再整備について検討を行っています。
- 摩耶山の再整備の状況によっては、より一層の需要が見込まれると考えられるため、一体的に検討を進めていきます。